

9月議会・議案外質問(9月16日) 田口一登議員

都市計画道路 「山手植田線」「八事天白溪線」は廃止を



9月16日の本会議で、田口一登議員は、都市計画道路「山手植田線」「八事天白溪線」の廃止と天白溪地区の東山公園計画の見直しを求めて質問しました。

「整備が困難な道路は廃止」の方針推進を

山手植田線は八事日赤病院北交差点で5差路になり、八事天白溪線は山手植田線と鋭角で交差という線形や構造に解決しがたい問題を抱えている路線です。2012年11月定例会での田口議員の本会議質問に、住宅都市局長は「整備が困難と判断された場合には、都市計画の廃止やそれにとまなう代替措置などを整理したい」と答弁しています。



第2次整備プログラムでは廃止路線に… 「見直しは住民の意見も勘案する(局長)」

6月に名古屋市が公表した未着手都市計画道路の「整備プログラムの見直し方針」では、①今後10年以内に整

備着手する「整備優先路線」、②今後10年以降に着手する「その他の整備路線」、③整備しない「計画廃止候補路線」に分類し、今年度中に「第2次整備プログラム」を策定する予定です。田口議員は「整備が困難で、住民の合意もない山手植田線・八事天白溪線は、当然、『計画廃止候補路線』に分類されることになるのか」と質問。局長は「見直し方針を踏まえ、総合的に判断する」と明言を避けました。

沿線の3つの町内会が「八事天白溪線対策会議」を立ち上げ、住民アンケートを実施。その結果を踏まえて、一昨年、天白区内の区政協力委員長などでつくる「天白区を住みよくする会」を通じて、八事天白溪線の計画の廃止を要望しています。田口議員は、「この2つの路線の見直しにあたっては、議会での議論や地元住民の意見も判断材料になるのか」と質問。局長は「議会の議論や地元住民の意見も勘案する」と答弁しました。

住民の意見は「計画廃止」

田口議員は「議会での議論や地元住民の意見は、計画の廃止だ。それを勘案すれば、山手植田線と八事天白溪線は計画廃止しかない」と指摘しました。

東山公園計画の見直しで、

樹林地の保全と居住の継続を

東山公園南部の長期未整備地区である天白溪地区は、都市計画決定されてから70年近くも未整備で、市の計画でも事業着手は2038年度以降です。

見直しを(74%) 立ち退きたくない(40%)

天白溪地区の3つの町内会は昨年、東山公園緑地計画についての住民アンケートを実施。「時代や環境が大きく変わっているので(計画を)見直すべきだ」との回答が74.8%、「立ち退きたくない」が40.9%でした。公園計画を見直し、このまま住み続けたいというのが、多くの住民の意思であることが示されました。

樹林地保全と居住を両立させ、財政負担も 軽減する観点で計画の見直しを

東山公園の都市計画決定区域から削除すると、宅地開発が進み、樹林地が失われる恐れがあります。

田口議員は、樹林地を残しながら、住民が住み続けられる方策として、①特別緑地保全地区の指定、②名古屋市の審議会の答申で提言されている新たな緑地保全制

度の創設・適用を提案しました。緑政土木局長は「樹林地の多くは公有地。おおむね1ha以上の民有樹林地が対象の新制度は適用できない」と答弁。

田口議員は「都市計画を見直さない限り、約170棟の立ち退きとなり、莫大な費用がかかる」と指摘。

「樹林地の保全と居住の継続を両立させ、将来的な本市の財政負担も軽減するという観点に立って、天白溪地区の公園計画を見直す必要があるのではないかと質しました。新開副市長は「自然環境が残されてきた経緯や、土地利用の状況、樹林地保全の観点などを踏まえ、総合的に考えていく」と答弁しました。

名古屋市は来年度末を目途に長期未整備公園緑地の検証中です。田口議員は「土地利用の状況や樹林地保全の観点、厳しい財政状況を踏まえて検証を進めれば、公園計画は見直しざるをえない」と指摘しました。

《新たな緑地保全制度》

おおむね1ヘクタール以上の豊かな林相を有する樹林地等を対象に、建築物の新設や増改築、宅地の造成などを届出制にし、市の指導により翻意を促す制度。土地所有者への税制優遇措置や支援制度を設けることで土地所有者の協力が比較的得られやすい制度設計。